



◇ 田中電気の情報発信NEWSレター ◇

## 田中電気のお仕事紹介 ～安心安全を守るお手伝い～

## 防災用監視設備 (目黒川)

東京都で管理している、台風や集中豪雨等による水害対策として、1時間50ミリメートルの降雨に対処できるように、「中小河川整備事業」の護岸や調節池等の整備のお手伝いをしています。

神田川、目黒川、石神井川など主な河川に設置されている、防災用監視カメラのメンテナンス業務を行なっています。写真は、JR五反田駅すぐの大崎橋から見た目黒川に設置されている河川監視カメラです。五反田から中目黒間に3台設置されています。増水していないか、氾濫の恐れがないかを監視するカメラが正常に動作するかを確認しています。

## ■洪水時 北区で51万人孤立…中央防災会議

中央防災会議の専門調査会は8日、埼玉県から東京都を経て東京湾に注ぐ荒川が大規模な洪水ではならんした被害想定をまとめた。墨田区の堤防が決壊した最悪のケースで、死者数が約7500人に上る。また北区の堤防が決壊した場合、孤立者は1日後に約51万人になる。内閣府は孤立者の救助や被害の軽減策を検討する。

被害は、関東地方で1947年9月に1000人を超える死者を出したカスリーン台風並みの規模で200年に1回発生する洪水を想定した。

墨田区の堤防が決壊した場合、過去の水害を踏まえた標準的な住民の避難率を40%とすると、排水施設が稼働すれば死者数は約500人、稼働しなければ約2100人に達する。

埼玉県川口市の堤防が決壊し排水施設が稼働しなかった場合は、1日後に約116万人が住む地域が浸水する。1週間を経過しても浸水は続くとしている。北区の堤防が決壊した場合の浸水地域は、さいたま市や足立区をはじめ千代田区にも及ぶという。

死者数が約7500人となるのは、川の流量がこれらの7割増という1000年に1回の洪水で、誰も避難しなかった場合を想定した。(08年9/9付け毎日新聞)



## ■お知らせ 「危機管理産業展 2008」に出展します 招待状をご希望の方は下記までご連絡ください！

危機管理に関連する製品・サービスなどを幅広く対象とした「危機管理総合トレードショー」です。昨年は3日間で延べ76,000人の来場がありました。当社は災害時における通信手段として、非常に有効性の高い業務用無線システム(mcAccess-e / 簡易無線機)と、セキュリティカメラの展示を行ないます。10月8日(水)～10日(金) 有明の東京国際展示場(東京ビックサイト)

上記に関するお問合せは、0120-150-712 または info@tanaka-denki.co.jp

秋葉原ファクトリーは田中電気のお客様のための窓口です

さとし

## 面白アキバ情報 『神田三十四堂』 昭和情景画／江戸小物

神田生まれの店主、上田さんが選んだ粋な江戸小物と昭和30年代の古き良き日本の情景画の色紙や絵葉書が並んでいます。「紙芝居」や「めんこ遊び」、「日本橋」「銀座 数寄屋橋の都電」など当時の子供の遊びや東京の風景が、キャプション入りで描かれていて、絵を見るだけではわからない当時の世界を知ることができます。見るだけで懐かしく、ほのぼのとした気持ちになれます。

上田さんは『アンパンマン』のやなせたかし氏が理事長で、ちばでつや氏、水島新司氏も属する社団法人、日本漫画家協会に昨年入会しました。森下・浅草・松戸などで個展を開き好評を得ています。複製色紙は1,500円。10枚組み絵葉書は1,000円。ご希望の方には新たに原画も制作可。これからの季節、企業のカレンダーの絵としても喜ばれそうです。氏の作品は『ぶらり途中下車の旅』（2006年8月放映）NTVでも紹介されました。



当に神田の生き字引、上田さん（写真左下）が描く江戸文化は必見です！  
**SHOP DATA** 千代田区神田司町2-14 TEL/FAX03-3252-2302  
 個展もあるので電話してから行くことをお勧めします

募集！

☆お宅の“ペット”自慢☆コンテストを開催します。ご自慢のペットの写真と一言コメントを大募集。Info@tanaka-denki.co.jpまで！どしどしお待ちしております！

## 江戸の歴史

## 『吉祥寺』(きちじょうじ)

シリーズ No. 21



JR駒込駅から徒歩で南に15分くらい、都立駒込病院の側に、堂々たる山門（表門）を持つ吉祥寺（曹洞宗）がある。この門は両側にくぐり戸をつけた四脚門で、元禄元年（1688年）に建てられたが、火事で何回か消失し、現在のものは享和2年（1802年）に再建されたもの。門の上に「梅檀林（せんだんりん）」の額が掲げられている。「梅檀林」とは曹洞宗の学問所のこと。ここには僧堂とともに学寮が建設され、千人あまりの学僧が厳しい修行を行い学問に励んだ。教科は内典（仏教）と外典（漢学）で、伝通院と並んで、有名な民間の宗派学問所であった。この寺の縁起は、太田道灌が江戸城を築く際に井戸を掘ったところ、「吉祥増上」と書かれている金印を掘り当てて、これを城内の庵に祀ったのが始まりという。明暦の大火で近辺に住んでいた人々が立ち退かされ、現在の武蔵野市吉祥寺を開拓したという。経蔵が納められた経蔵は二重の屋根で、頂には青銅製の露盤宝珠（ろばんほうしゅ）が置かれている。内部に八角形の回転式の経蔵がある。この形式はチベット仏教からのもので、文字の読めない人も、これに触れるだけで功德を受けられるとされた。本道手前左側に幕末の農政家、二宮尊徳の墓がある。尊徳は小田原藩下野桜町の荒廃地を復興したことで知られ、勤勉と勉学の象徴として、たきぎを背負って本を読んでいる金次郎像で有名な人物である。また、経蔵・手前奥には、幕末の海軍奉行、榎本武揚（たけあき）の墓もある。榎本は幕府海軍を率いて函館の五稜郭に立てこもった。維新後、ロシア特命全権公使、海軍卿、外務大臣にもなった。伊原西鶴が「好色五人女」の中で、八百屋お七と吉三の出会いの場を吉祥寺としたことから、ここにはお七と吉三の比翼塚（ひよくづか）がある。これは創作で、実際は白山の円乗寺が本当らしい。（歴史の散歩道より）

編集後記 武蔵野市の吉祥寺の元が駒込とは知りませんでした！門をくぐると、両側に木が生い茂る細く長い一本道があり、そこを通り抜けると広い空間が突然広がりちょっと驚くほどハッとしました！200年前に再建された門に触れると、なんとも感慨深い気持ちになりました。これからは涼しく過ごしやすい季節が来るので、秋晴れを楽しみに散歩、いいですね。